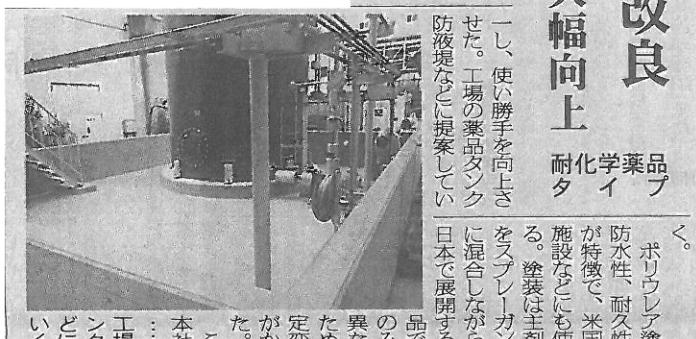


## ポリウレア塗料改良 東京ライン 作業性を大幅向上

耐久性  
防水性  
伸び率  
化学薬品への耐性に優れ



米ライノ・ライニングスの日本総代理店である東京ライノ(東京都新宿区、緒方修一社長)は、化学薬品への耐性に優れたポリウレア塗料「ハイケム」に改良を加え発売する。スプレーカンによる混合比を他のポリウレア塗料と同じ1対1に統一し、使い勝手を向上させた。工場の薬品タンク防液堤などに提案している。

日本で展開するライノ製品でハイケムのみ混合比が異なる。そのため装置の設定変更に手間がかかるといった。このほど米本社が新製品工場の薬品タンク防液堤などに提案していく。

「ハイケム11-70」を開発した。他のポリウレア塗料と混合比が等しく、使い分ける場合の時間が削減できる。同時にコストも3割ほど抑えた。硬度や伸び率は従来品とは同等で、酸性やアルカリ性などの各種化学薬品への耐性は維持している。これまで日本ではハイケムを求める顧客に対して、装臵の操作性を優先して「ライノ・エクストリーム」を提供するケースがあった。ライノ・エクストリームは高湿度や低温などの悪条件でも施工可能な点が特徴だが、ハイケムに比べると耐薬品性は若干劣る。今後は日本にも改良したハイケムを導入し、硫酸への耐性を求める製紙工場などに向けて販売していく。

また、ライノ・エクストリームである「ライノ・ソーラーマックス」の本格展開も急ぐ。ポリウレア塗料は一般的に紫外線で黄変しやすく、屋外の部位に使用する場合はトープコートを組み合わせることが多い。

ソーラーマックスはトープコートなしでも黄変が発生せず、また塗膜の色を透明にできる。価格はエクストリームやハイケムの2倍程度と高価だが、コンクリート下地の質感を生かした物件などに狙いを定め訴求する。

「ハイケム11-70」を開発した。他のポリウレア塗料と混合比が等しく、使い分ける場合の時間が削減できる。同時にコストも3割ほど抑えた。硬度や伸び率は従来品とは同等で、酸性やアルカリ性などの各種化学薬品への耐性は維持している。これまで日本ではハイケムを求める顧客に対して、装臓の操作性を優先して「ライノ・エクストリーム」を提供するケースがあった。ライノ・エクストリームは高湿度や低温などの悪条件でも施工可能な点が特徴だが、ハイケムに比べると耐薬品性は若干劣る。今後は日本にも改良したハイケムを導入し、硫酸への耐性を求める製紙工場などに向けて販売していく。

また、ライノ・エクストリームである「ライノ・ソーラーマックス」の本格展開も急ぐ。ポリウレア塗料は一般的に紫外線で黄変しやすく、屋外の部位に使用する場合はトープコートを組み合わせることが多い。

ソーラーマックスはトープコートなしでも黄変が発生せず、また塗膜の色を透明にできる。価格はエクストリームやハイケムの2倍程度と高価だが、コンクリート下地の質感を生かした物件などに狙いを定め訴求する。